

市長の窓

しげ のぶ
滋宣の



ほう ちゅう かん

あん ちゅう めい

“忙中閑あり暗中明あり”

その 40

～ 雪折れ ～

雪が降り積もって、その重さで木の枝などが折れることを「雪折れ」といいます。太い枝が折れてしまうことがあります。積もった雪がずり落ちる際に枝が引っ張られるせいです。また、水分の多い雪が降った後、気温が下がったりしますと、幹の中程から折れることもあります。

雪の降らない地方での雪はふわふわとして軽く、メルヘンチックなイメージは、雪国ではありません。やはり、厳しい自然の一つです。

庭木などの雪折れを防ぐためには、幹に沿って支柱を立て、そこから縄やひも、針金などを垂らして、枝を吊り上げます。これを「雪吊り」といいます。能代の町中でも散見できますが、金沢の兼六園の雪吊りが有名です。

端然として美しく、雪国ならではの情趣があります。

雪折れの 竹生きてる 香りを放つ
(加藤知世子)

能代市長 齊藤 滋宣



1月5日、能代市二ツ井町の駅通りから本町通りにかけて消防出初式が行われました。